

技委発第08-1号通達
平成20年 4月 1日

関係各位

技術委員長 池谷 あや子
(公印省略)

2008年ルールの確認 (その2)

今回の通達の国内運用は2008年(平成20年)4月1日からとしますので、内容を確認し、周知徹底をお願い致します。

1. ベンチプレスについて

セーフティーバーの高さは、ラックの高さ同様、試技前に必ず選手が申告しておくこと。
もし、バーが胸に付く前にセーフティーバーの上に乗ってしまった場合、対応は次のとおりとする。

申告した高さと実際の高さが違っていた⇒正しい高さにセッティングし、再試技を行う。
申告した高さと実際の高さが合っていた⇒試技をしたとみなし、その試技は『失敗』とする。
再試技は行わない。

2. 肘の診断書について

肘が伸びない選手について国内の公認大会では、大会ごとに医師の同意書(証明)をコスチュームチェック時に提出すること。「この前出場した大会で提出した。」というものは通用しない
試技前のアピールは必ずすること。

医師の同意書(証明)は、医学的根拠に基づき診断されたもの(レントゲン等画像診断によるものなど)であり、疾患・傷病名を含み、肘の最大伸展位での角度(ひじの曲がらざるを得ない角度)が、数字として明記されていなければならない。

医師の同意書(証明)は大会終了後、本人に返却する。有効期限は特に設けていないので、肘の曲がる角度が変わらない限り、何回でも使用できる。

ただし、肘の曲がり方は医師の同意書(証明)が提出されている場合のみ、明記されている角度まで(最大15度まで)とし、それ以上の曲がり方は認められない。

また、医師の同意書(証明)が提出されていない場合は肘が伸びると判断し、いかなる肘の曲がりも認められない。

3. デッドリフト競技におけるハイソックス使用について

ジャパンオープンパワーリフティング選手権大会でも、デッドリフトの時、膝下までの長い靴下を履かなければならない

4. 試技カードについて

全日本の男女・ジュニア・マスターズ、ジャパンオープンパワーリフティング選手権大会、全日本ベンチプレス・マスターズベンチプレス、ジャパンオープンベンチプレス大会では、重量申請のための試技カードを使用しなければならない。(トラブル防止のため)。

その他の全日本を銘打った大会については、主催連盟の判断による。

《問い合わせ先》

TEL 090-3556-6731

(留守の場合が多いので、なるべくメールをお願いします)

メール a-ikeya@ai.tnc.ne.jp

JPA 技術委員会 池谷 あや子